



廣瀬 裕一 (HIROSE Yuichi)

研究員

修士 (環境理工学)

- 1979 兵庫県神戸市生まれ
- 2003 岡山大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了
独立行政法人農業工学研究所採用
- 2004 農地整備部 畑整備研究室
- 2005 農村環境部 環境評価研究室
- 2006 農研機構 農村工学研究所 同部 同室
- 2011 資源循環工学研究領域 エネルギーシステム担当



深田池 (神戸市東灘区)
卒業中学校近くにある深田池が元は農業用ため池だったことを後で知った。

研究者の横顔

<私の原点>

兵庫県神戸市中央区に生まれ高校卒業まで、田んぼが全くない神戸市東部で生活していました。中学生の時に野田知佑さんの著書にふれ、河川環境に強く興味を持ち、「豊かな水環境」とは何かを知るために、岡山大学環境理工学部に入りました。

大学・大学院では、豊かな水環境は「安定した水量」と思い、水文学を学ぶことで流域の土地利用と流出量の関係を検討しました。また、大学時代にバックパッカーになって毎年ヨーロッパを放浪することで、「豊かな水環境」は水量や水質といったものだけで必ずしも規定されるだけでなく、水路の構造や利用も影響するということを実感しました (例えば右のオーストリアの水路)。



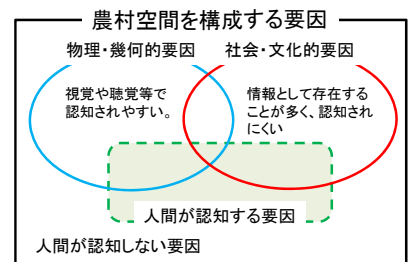
オーストリアのとある田舎の水路

<就職してから>

畑整備の研究室に1年間配属された後、環境評価研究室に異動になり、新たに農村計画を主眼とした研究を行うことになりました。

「豊かな水環境」を復元・創造したいというこだわりを持っていたため、「豊かな水環境」とは何か? というのを明らかにしようと考えました。

そのような中で、環境心理学という人間と環境と関係を検討する分野があることを知り、人がどのような水環境 (空間) を好ましいと評価するのかを、施設計画の観点から追究することにしました。



人が認知する農村空間の構成要素

<揚水水車>

そこで、平安時代から利用されている揚水水車に着目し、非農業者の選好性の決定要因を分析したところ、「地域性がある」等といった指標が支持され、歴史的農業水利施設の存在が当該地域のアイデンティティを規定していることなどを明らかにしました。このような揚水水車は、「好ましい (豊か) 水環境」づくりに寄与するので、流水の運動エネルギーを位置エネルギーに変換するという揚水水車の本来機能を、再生可能エネルギーとしてもっと積極的に利用することにより、実効性を伴う「水の豊かさ」を創造できないか研究に取り組んでいます。



揚水水車 (倉敷市)